



脳卒中は時間との勝負。早期発見・治療が病状を左右します



西村内科脳神経外科病院

理事長 西村 誠一郎 先生

熊本大学卒業
脳神経外科学会、内科学会、
体質学会会員

脳卒中の種類

- 脳内出血
…脳の中で細い血管が破れる
- 脳梗塞
…脳へ血液を送る血管がつまる
- くも膜下出血
…脳の太い血管の一部がふくらんだコブ（動脈瘤）が破裂して脳の表面に出血が広がる

代表的な症状(前兆)

- ・麻痺…顔の右か左、片方の手足が突然動かなくなる
- ・言語障害…呂律がまわらない、言葉が出ない など
- ・失調…足元がふらつく など

毎年50万人以上が発症している脳卒中。日本人の3大死因の一つで、突然発症する怖い病気ですが、予防・早期発見ができることを知っていますか。西村先生にお話を伺いました。

まず、予防ができるということ、自分の危険度を知ることが大切

— 急に倒れ、後遺症が残ったり、大変な介護が必要になる場合がある脳卒中ですが、毎年50万人の人が発症しているのには驚きました。

西村 脳卒中とは、脳の血管に起きる障害をい

のマジや言語障害などの後遺症に悩まされますから、予防・早期発見がカギとなります。

— 突然のことで防ぎようがないイメージがありますが…。

西村 脳卒中は突然起こることが多いのですが、右下表のような前兆が見られることも。自覚症状があればすぐ、医師の診

MR I、CTスキャンを駆使し、発症前に予防的治療を

— こちらの病院では、脳卒中の予知予防に積極

察を受けることをおすすめします。早期発見できれば、発症前に脳卒中の要因を取り除くことができるからです。また、前兆がなくてもご自身の危険因子を減らすことも大切。発症の危険性が高まる高血圧、糖尿病、高脂血症(脂質異常症)の方は医療機関でしっかり治療を行ってください。

ます。検査方法や薬の進歩で発症が抑えられています。高年齢になって発症する人が多いため、実際には発症数は増加し続けています。一度倒れたら、手足

的に取り組んでいらないと、やるそうですね。

西村 昨今ではCTスキャン、MRIなどを使って発症前に血管の状態を確認し、事前治療ができるようになりました。当院では、そのような予防医療を行う外来を「脳卒中予知外来」と位置づけ、一人でも多く脳卒中の患者を減らしたいと取り組んでいます。脳梗塞は50代から、くも膜下出血は20代から危険性があります。ぜひ、予防を心がけてほしいですね。